

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部・学科の設置									
フリガナ設置者	ガクセンアカデミー アンジョウガクエン 学校法人 安城学園									
フリガナ大学の名称	アイガクセンダガク 愛知学泉大学 (Aichi Gakusen University)									
大学本部の位置	愛知県岡崎市袖越町字上川成28番地									
大学の目的	「建学の精神」の実践を通して、創立者が目指した経済的・政治的・文化的に自立できる社会人を育成することによって、地域と国際社会に貢献することである。									
新設学部等の目的	子どもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を養成することです。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	家政学部 [Faculty of Home Economics] こどもの生活学科 [Department of Children's life]  計	4年	70人	—人	280人	学士 (家政学)	令和2年4月 第1年次	愛知県岡崎市袖越町字上川成28番地		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	家政学部 家政学科 管理栄養士専攻 (廃止) △80 家政学専攻 (廃止) △40 こどもの生活専攻 (廃止) △70 ※令和2年4月学生募集停止 家政学部ライフスタイル学科 (40) (平成31年4月届出) 家政学部管理栄養学科 (80) (平成31年4月届出)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	家政学部こどもの生活学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	家政学部こどもの生活学科		教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
				6人 (6)	2人 (2)	5人 (5)	0人 (0)	13人 (13)	2人 (2)	22人 (22)
		家政学部ライフスタイル学科		5 (5)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	2 (2)	34 (34)
		家政学部管理栄養学科		6 (6)	5 (5)	4 (4)	1 (1)	16 (16)	5 (5)	20 (20)
	計		17 (17)	7 (7)	12 (12)	1 (1)	37 (37)	9 (9)	76 (76)	
既設			0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	
	計		0	0	0	0	0	0	0	
合計			17 (17)	7 (7)	12 (12)	1 (1)	37 (37)	9 (9)	76 (76)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		13 (13)	0 (0)	13 (13)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	3 (3)	4 (4)					
	そ の 他 の 職 員		2 (2)	2 (2)	4 (4)					
	計		16 (16)	5 (5)	21 (21)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	0 m <sup>2</sup>	6,108 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	6,108 m <sup>2</sup>	共用は、愛知学泉短期大学				
	運 動 場 用 地	0 m <sup>2</sup>	30,221 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	30,221 m <sup>2</sup>					
	小 計	0 m <sup>2</sup>	36,329 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	36,329 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	0 m <sup>2</sup>	16,315 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	16,315 m <sup>2</sup>					
	合 計	0 m <sup>2</sup>	52,644 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	52,644 m <sup>2</sup>					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		6,816 m <sup>2</sup> ( 6,816 m <sup>2</sup> )	12,125 m <sup>2</sup> (12,125 m <sup>2</sup> )	7,158 m <sup>2</sup> (7,185 m <sup>2</sup> )	26,099 m <sup>2</sup> (26,099 m <sup>2</sup> )	共用は、愛知学泉短期大学				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	22 室	10 室	14室	6 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 家政学部こどもの生活学科		室 数	13 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学科単位での特定不能のため大学全体の数		
	家政学部 こどもの生活学科	63,684 [3,461] (60,484 [3,451])	470 [110] (470 [110])	1 [ 0 ] (1 [ 0 ])	1,361 (1,301)	938 ( 938 )	0 ( 0 )			
	計	63,684 [3,461] (60,484 [3,451])	470 [110] (470 [110])	1 [ 0 ] (1 [ 0 ])	1,361 (1,301)	938 ( 938 )	0 ( 0 )			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数						
		1,654m <sup>2</sup>	224	171,690						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		3,762m <sup>2</sup>	該当なし							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	※図書購入費及び設備購入費は届出学科全体 ※図書購入費にはデータベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等		300 千 円	300 千 円	300 千 円	300 千 円	—	—	
		共 同 研 究 費 等		—	—	—	—	—	—	
		図 書 購 入 費	6,134 千 円	6,100 千 円	6,100 千 円	6,100 千 円	6,100 千 円	—	—	
	設 備 購 入 費	3,000 千 円	3,000 千 円	3,000 千 円	3,000 千 円	3,000 千 円	—	—		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
		1,428 千 円	1,148 千 円	1,148 千 円	1,148 千 円	— 千 円	— 千 円			
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

既設大学等の状況	大学の名称	愛知学泉大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	家政学部 家政学科	4年	190人	—	760人	学士（家政学）	0.73倍	昭和41年度		愛知県岡崎市舳越町 上川成28番地
	現代マネジメント学部 現代マネジメント学科	4年	—	—	—	学士（現代マネジメント）	—	平成23年度	愛知県豊田市大池町 汐取1番地	
既設大学等の状況	大学の名称	愛知学泉短期大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	食物栄養学科	2年	70人	—	140人	短期大学士（食物栄養学）	0.69倍	昭和25年度		愛知県岡崎市舳越町 上川成28番地
	生活デザイン総合学科	2年	130人	—	260人	短期大学士（地域総合科学）	1.06倍	平成16年度		
幼児教育学科	2年	120人	—	240人	短期大学士（幼児教育学）	0.77倍	昭和54年度			
附属施設の概要	該当なし									

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(家政学部こどもの生活学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	教養分野	潜在能力の開発	1前	2			○									兼1
		心理学	1前		2			○								兼1
		人間関係とコミュニケーション	2前		2			○								兼1
		社会学	3後		2			○								兼1
		生活経済論	1後	2				○								兼1
		日本国憲法	3前		2			○								兼1
		生活学概論	1後	2				○			1					
		家族論	3前	2				○								兼1
		情報リテラシーⅠ	1前		1				○					1		兼1
		情報リテラシーⅡ	1後		1				○					1		兼1
		未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	1前	1				○			6	2	5			
		未来へつなぐアウトリーチⅠ	1前	1							6	2	5			
	未来へつなぐアウトリーチⅡ	2前		1											○	
	小計 (13科目)	—	—	10	11	0		—		6	2	5	0	2	兼8	—
	保健体育分野	運動の科学	1前		2			○					1			
体育実技		1後		1								1				
小計 (2科目)	—	—	0	3	0		—		0	0	2	0	0	兼0	—	
外国語分野	英語	1前		1				○				1				
	英会話	1後		1				○				1				
	中国語	2前		1				○							兼1	
	ハングル	2後		1				○							兼1	
	日本語Ⅰ	1前		1				○							兼1 留学生対象	
	日本語Ⅱ	1後		1				○							兼1 留学生対象	
小計 (6科目)	—	—	0	6	0		—		0	0	1	0	0	兼3	—	
その他	単位認定A			1				○								
	単位認定B			1				○								
小計 (2科目)	—	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼0	—	
コア科目	基礎演習A	1前	1					○		3		1		1	オムニバス	
	基礎演習B	1後	1					○		2		1		1	オムニバス	
	基礎演習C	2前	1					○		1		2		1	オムニバス	
	基礎演習D	2後	1					○		1		1		1	オムニバス	
	専門演習A	3前	1					○		1	1	1		1	オムニバス	
	専門演習B	3後	1					○		1	1	1		1	オムニバス	
	専門演習C	4前	1					○			1	1		1	オムニバス	
	専門演習D	4後	1					○			1			1	オムニバス	
	小計 (8科目)	—	—	8	0	0		—		5	2	5	0	2	兼0	—
共通領域	教職入門	1前	2					○		1						
	教育心理学	1前	1					○		1						
	教育制度論	1後	2					○		1						
	教育原理	1後	2					○		1						
	教育方法論	2前	2					○							兼1	
	教育課程総論	2後	2					○		1						
	特別支援教育論	2後	2					○							兼1	
	教育相談 (カウンセリングを含む。)	3前	2					○		1						
	教育経営論	4前	2					○				1				
	ICT実践演習	4前	2						○	1						
	幼小連携	4後		2				○				1				
	教職実践演習 (幼・小)	4後		2					○	2					オムニバス	
	こども生活学概論	1前	2					○		1						
	こども生活学Ⅰ	1後	2					○			1					
こども生活学Ⅱ	3前	2					○		1							
小計 (15科目)	—	—	25	4	0		—		3	1	1	0	0	兼2	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
幼保 領域	社会福祉	4後	2			○									兼1
	子ども家庭福祉	4前	2			○									兼1
	保育原理	1前	2			○									兼1
	保育者論	1後	2			○									兼1
	子ども家庭支援の心理学	4後	2			○			1						
	保育の心理学	1後	2			○			1						
	子どもの保健	1後	2			○				1					
	子どもの食と栄養	2後	2				○								兼1
	子ども家庭支援論	2前	2			○			1						
	保育内容総論	3前	2				○								兼1
	保育内容（健康）	1後	2				○			1					
	保育内容（人間関係）	2前	2				○		1						
	保育内容（環境）	2後	2				○				1				
	保育内容（言葉）	1前	2				○								兼1
	保育内容（表現A）	2前	2				○			1				1	
	保育内容（表現B）	2後	2				○		1					1	
	保育内容（表現・演劇）	2前	2				○				1				
	幼児教育指導法	3後	2			○									兼1
	乳児保育Ⅰ	1後	2				○			1					
	乳児保育Ⅱ	2前		1			○								兼1
	子どもの健康と安全	3後		1			○								兼1
	障害児保育	3前		2			○								兼1
	社会的養護Ⅰ	2後		2		○				1					
	社会的養護Ⅱ	3前		1			○			1					
	子育て支援	3前		1			○			1					
	保育の計画と評価	2後	2			○									兼1
	幼児理解	3後		2		○				1					
	こども文学	3後		2		○				1					
	こども文化	4前		1			○			1					
	こどもの健康Ⅰ	2前		1			○					1			
	こどもの健康Ⅱ	2後		1			○				1				
	こどもと人間関係	3後		1			○			1					
	こどもと環境	3前		1			○					1			
	こども言語	3後		1			○								兼1
	こども表現（音楽Ⅰ）	1前		1			○					2			オムニバス
	こども表現（音楽Ⅱ）	2前		1			○					2			オムニバス
	こども表現（音楽Ⅲ）	3後		1			○					2			オムニバス
	こども表現（図画工作A）	1前		1			○			1				1	
	こども表現（図画工作B）	4前		1			○			1				1	
	保育実践演習	4前		2			○			2				1	
	地域と子育て支援	3後		2		○									兼1
小計（41科目）		—	40	27	0	—	—	—	4	1	4	0	2	兼6	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 科目	国語科教育法	1後	2			○			1							
	社会科教育法	3前		2		○			1							
	算数科教育法	1後		2		○									兼1	
	理科教育法	3前		2		○									兼1	
	生活科教育法	2後		2		○						1				
	音楽科教育法	3前		2		○						1				
	図画工作教育法	2後		2		○									兼1	
	家庭科教育法	3後		2		○									兼1	
	体育科教育法	3前		2		○			1							
	外国語（英語）教育法	2前	2			○						1				
	特別活動の指導法	3後	2			○			1							
	道德教育の理論と実践	1後	2			○			1							
	総合的な学習の時間の指導法	2後	2			○									兼1	
	国語科（含む書写）研究	1前	2			○			1							
	社会科研究	2前	2			○			1							
	算数科研究	1前	2			○									兼1	
	理科研究	2前	2			○									兼1	
	生活科研究	1後	2			○						1				
	音楽科研究	2後	2					○				1				
	図画工作研究A	2前	2					○	1					1		
	図画工作研究B	3後		1				○	1					1		
	家庭科研究	2前	2					○		1						
	体育科研究	2後	2					○	1							
	英語科研究	1後	2					○				1				
	小学算数	2後		1				○							兼1	
	小学家庭	4前		1				○		1						
	児童音楽	4前		1				○				1				
	児童体育	4前		1				○				1				
	児童英語	4前		1				○				1				
	生徒指導論	3前	2				○		1							
	進路指導論（キャリア教育を含む。）	3後	2				○		1							
	小計（31科目）	—	—	34	22	0	—	—	—	5	1	5	0	2	兼5	—
	実習（学外） 領域	保育実習指導Ⅰ	2後		2				○	1					1	
保育実習Ⅰ		2後		2				○	1					2		
施設実習		3前		2				○			1			1		
保育実習指導Ⅱ		3後		1				○	1					1		
保育実習Ⅱ（保育実習）		3後		2				○		1				1		
保育実習Ⅲ（施設実習）		3後		2				○		1				1		
教育実習指導（幼）		3後		1				○	1		1			1		オムニバス
教育実習指導（小）		3前		1				○	2					1		オムニバス
教育実習（幼）		4前		4				○			1			2		
教育実習（小）		3後		4				○	1					2		
ボランティア活動A（介護等体験実習）		2後		1				○			1			2		
エクスターンⅠ		2前		1				○	2					1		オムニバス
エクスターンⅡ		2後		1				○	2					1		オムニバス
小計（13科目）	—	—	0	24	0	—	—	—	5	1	3	0	2	兼0	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
ライフ 開拓 領域	キッズイングリッシュⅠ	1前		1			○					1				選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	キッズイングリッシュⅡ	4後		1			○					1				
	学泉アカデミーA	1前		1			○		1			1				
	学泉アカデミーB	1前		1			○									
	学泉アカデミーC	1後		1			○		1			1				
	学泉アカデミーD	1後		1			○		1							
	学泉アカデミーE	2前		1			○					1				
	学泉アカデミーF	2前		1			○		1							
	教職保育特論1	2後		1		○			2	1	3					
	教職保育特論2	2後		1		○			4	1	2					
	教職保育特論3	3前		1		○			2	1	3					
	教職保育特論4	3前		1		○			4	1	2					
	教職保育特論5	3後		1		○			2	1	3					
	教職保育特論6	3後		1		○			4	1	2					
	教職保育特論7	4前		1		○			2	1	3					
	教職保育特論8	4前		1		○			4	1	2					
小計(16科目)	—	0	16	0	—	—	—	6	2	5	0	0	兼0	—		
卒研	卒業研究	4前後	4				○	6	2	5						
小計(1科目)	—	4	0	0	—	—	—	6	2	5	0	0	兼0	—		
合計(148科目)		—	121	115	0	—	—	6	2	5	0	2	兼22	—		
学位又は称号		学士(家政学)		学位又は学科の分野			家政関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p>卒業要件：共通科目24単位（うち必修科目10単位、外国語分野選択必修2単位以上）、専門科目93単位（うち必修36単位）合計124単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：48単位（年間））</p> <p>資格要件：①保育士と幼稚園教諭一種：共通科目21単位、専門科目102単位以上。合計123単位以上。②幼稚園教諭一種と小学校教諭一種：共通科目21単位、専門科目115単位以上。合計136単位以上。③保育士と小学校教諭一種：共通科目21単位、専門科目135単位以上。合計156単位以上。④保育士と幼稚園教諭一種と小学校教諭一種：共通科目21単位、専門科目132単位以上。合計153単位以上。</p>						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要

(家政学部こどもの生活学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学 部 共 通 科 目	教 養 分 野	潜在能力の開発	初年次教育として家政学部の教育目標と自己ビジョンを明確にする授業です。その内容は、教育目標に掲げられている四大精神（徳性）、社会人基礎力（行動）、pisa型学力（智性）について理解します。社会に出てからも自己の潜在能力を可能性の限界まで開発するための3つの挑戦(苦手への挑戦・上達への挑戦・未知への挑戦)について理解します。さらに、本学の建学の精神である「生きる意志と生きる力と生きる喜びに満ち溢れた鵬のような大局的な存在となること」について理解します。これらの教育目標を学修行動と大学生活に展開して学生個々の4年間の未来設計図を作成します。	
		心理学	人が生活の中で「なぜヒトはこのように行動するのか？考えるのか？感じるのか？」を、心理学の基礎理論を概観しながら心と行動のメカニズムを科学的に解明しようとする学問である。社会生活や家庭生活で直面する人間のこころを心理学的にとらえ、どのように行動につながるかの基礎を学び、実際の生活に取り入れることを目指す。また、心理の科学的なメカニズムを基本に、社会生活、家庭生活および大学生活において、身近に発生するトラブル発生の原因とその解決案等についても学びます。	
		人間関係とコミュニケーション	普段あまり意識せずに行っている日本語を使ったコミュニケーションに対して、コミュニケーション学及び言語学の角度からアプローチし、私たちが使っている日本語やそれを使って行うコミュニケーションを客観的な視点から学ぶ。さらに、人間関係を構築、継続していく上で、コミュニケーションを自己と他者の間の双方向の情報、感情の分かち合いとして活用し、それを達成するために必要とされる能力として、受容と主張、言語と非言語、対話などにフォーカスした理論と体験ワークを行い、よりよい人間関係を構築するためのコミュニケーションについて学びます。	
		社会学	生活の中で発生する社会現象の実態、現象の起こる原因に関するメカニズムを解明しようとする学問である。地域社会を構成する家族、コミュニティなどの集団、組織、社会構造から社会現象と実態を理論的に学び、さらに社会現象と実態を生活の身近なテーマから「あたりまえ」を疑うこと、批判的に考察することによって、社会を構成するさまざまな要因を知り、社会学の知見を理論的・批判的に考察することによって、現在・そしてこれからの社会で生きていくために応用可能な力を身につけ、現在と将来の社会で生きていくための応用力を修得します。	
		生活経済論	個人や世帯の生活で営まれる経済活動の全般を論じます。生活を営む上で、収入を得る稼働、製品・サービスを購入する消費、また将来に備える貯蓄をします。また公共支出と呼ばれる、所得税・消費税などの税金、医療や介護サービス、さらに年金を得るための社会保険料等につき、負担と給付の関係等について、現在だけの問題ではなく、将来の生活を定める選択で、世代間の意識についても学びます。さらに、生活（家庭）経済を市民・生活者の立場から、生活の質、生活の豊かさ、生活を充実させるとは何か、それを実現するための社会・経済的課題は何かといった問題を、経済学、家政学、社会保障論をはじめとする多くの分野から総合して、経済学的な論理を通して学びます。	
		日本国憲法	日本国憲法の基本的な知識について、日本国憲法の制定から今日に至るまでに生じた様々な具体的な憲法問題を紹介しながら解説をします。本科目では、自立した社会人として、一般教養・技能・常識に裏付けられた思考力を身につけるために、日本国憲法の基本的な知識を修得します。内容は、家政学部ディプロマ・ポリシーの「単位認定にあたって重視する」項目として挙げられている能力を備えた人材、すなわち、「他者を理解し種々の考えを受け入れることができる」「専門能力の基本となる社会にかかわる知識・技能を習得することができる」「自立した社会人としての教養を身に付けることができる」人材の育成に資することを日本国憲法を通して学びます。	
		生活学概論	家庭生活を中心とした人間の生活を扱う「生活学」について学びます。社会的背景と生活実態を新聞記事、雑誌記事、生活統計などの文献資料から、現代生活の課題を発見し、生活のあり方、生活の質とは何か、豊かな生活とは何かについて課題解決への提案をします。さらに生活学・家政学の発達と生活全体を包含する生活学への発展過程を踏まえ、日本以外の生活学・家政学の動きを情報収集することにより、今後の生活学・家政学の方向性についても学びます。	
		家族論	家族のあり方の多様化、家族の機能の縮小に伴い、家族の機能の役割について、多くの課題が問われています。現代の家族の問題を家族を類型・分類、家族の発達及び家族成員のライフコース、家族の内部構造、家族機能と社会的支援、家族変動の観点から抽出し、その課題を解決していくために、私たち個人が社会の中でどのような存在であるのか、どのような役割があるのか、また家族とは個人にとってどのような存在であるのか、どのような役割を果たし社会と繋がっているか等について家族を核にして社会を学びます。	
情報リテラシー I	生活を科学する技術として、パソコン・情報機器は資料作成、情報発信の必須アイテムとなっています。また、パソコンを活用するテクニックは、様々な情報機器を操作する上でも基本であり、実社会においても常識となっています。この授業では、「パソコンは、身近な文房具」をモットーに、MicrosoftのWord、PowerPoint、Excelといったポピュラーなアプリケーションソフトを活用します。パソコンを使いこなすことより、専門知識・技術の修得の向上を目指し、パソコンを活用して気軽に資料やレポート、教材などを作成する基盤を修得します。			

**授 業 科 目 の 概 要**

(家政学部こどもの生活学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 共通 科目	情報リテラシーⅡ	専門知識・技術の修得を目指し、情報リテラシーⅠに引き続き、パソコンを使いこなすための技術と知識の基礎を学修します。この授業では、「パソコンを、もっと身近なツールに」をモットーに、情報リテラシーⅠで修得したMicrosoftのWord、PowerPoint、Excelの基礎をさらに専門知識・技術へと展開できるようにWordによる文書作成、プレゼンテーション用PowerPointの作成、Excelを使って統計処理の方法、さらに高度なデータベースソフトAccessの活用方法についても修得します。	
	未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	「未来へつなぐアウトリーチ スタートアップ」、「未来へつなぐアウトリーチⅠ・Ⅱ」は、本学の教育方針である「智・徳・行」を育成する共通科目として設置しています。「アウトリーチ」とは、「手を伸ばす／差し伸べる」ことを意味し、問題を抱えた人のところに積極的に向かって支援することです。この科目は「未来へつなぐアウトリーチⅠ」の授業内容を理解して、活動をスムーズに取り組むために用意しています。「アウトリーチとボランティアの社会的意義」、「家政学の視点からの課題の発見・課題の解決 (pisa型学力 (知識の獲得・活用・解決する力))」、「四大精神『真心・努力・奉仕・感謝』」、「社会人基礎力」について理解します。さらにボランティア先を回遊調査し、現地の課題を発見して、課題解決の実施計画書を作成します。これによりボランティア精神、建学の精神、社会人基礎力の基本を学びます。	
	未来へつなぐアウトリーチⅠ	「未来へつなぐアウトリーチスタートアップ」で作成した実施計画案に基づいたボランティア活動に取り組みます。PDCA (P:計画、D:実施、C:チェック、A:修正) サイクルを活用して、家政学の核となる衣・食・住の生活活動を家政学の視点からボランティア先の課題を発見し、その課題解決にpisa型学力を活用します。また、ボランティア先の方と課題解決の活動をする中で四大精神の心を育て、社会人基礎力 (前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力) を発揮することで、人が目的・目標を持って活動するために、何が必要であるかを学びます。	
	未来へつなぐアウトリーチⅡ	「未来へつなぐアウトリーチⅠ」では、ボランティア先の課題解決の方法、四大精神、社会人基礎力の発揮法について学びました。これを基盤として、1年生が取り組む「未来へつなぐアウトリーチⅠ」を円滑に進めることができるように支援します。「未来へつなぐアウトリーチⅡ」では、1年生のボランティア活動の目的・目標を到達するために、個人がチームで働く力を引き出し、そのチームの成果が最大となるように支援するファシリテーター (リーダー) として活動します。そこで1年生メンバーの意見を引き出し、意見をまとめ、実践行動に結びつけるコミュニケーション力を修得します。1年次に修得した家政学の視点からの課題解決 (pisa型学力=知識の獲得・活用・解決する力) ・四大精神・社会人基礎力をさらに育成します。	
	運動の科学	運動は、生活の質を向上することを目的としています。健康の3要素は運動・栄養・休息であることは認識されています。運動習慣が健康な生活を営む上で果たす役割を理解し、健康の維持・増進および疾病予防のための健康作りができるように、運動生理学的知識と技能を学びます。また、生活の質を高めるための生活習慣病 (糖尿病、脂質異常症、高血圧症、心疾患等) 予防と運動との関連性を国内外の実証研究を提示して、運動がもたらす身体への生理効果について修得します。	
	体育実技	生活の質の向上を目指し、健康の維持と体力増進および疾病予防を目的としています。体育実技の持つ遊戯性、競技性、互助性、集団規則などの複合性に対する感受性を高めながら、運動が身体にどのような影響をおよぼしているかについて学びます。また、各種目の基本技術、ゲームを行うための基本フォーメーションやルールや技術を理解し、安全に活動するための方法を学びます。さらに審判を含めて集団でゲームを円滑に運営できるように取り組みます。これらの体育実技を通して、他者と協力しながら活動するためのコミュニケーション能力も修得します。	
	英語	英語4技能のうち、読む、書くの実践的な能力を身に付けます。英語を話したり、英文を読んだりする上でとても重要となる英文法を中心に学びます。実践的な練習問題や短い読解問題を通して、大学生が最低限知っておくべき英文法の基礎、英単・熟語、英語表現を助動詞、句動詞、接続詞、比較、時制、完了形と未来、能動態と受動態、条件と否定から学び英語の基本を修得します。教材は、本学の創立者寺部だい先生の自伝「寺部だい自伝 おもいでぐさ」英語版を教材とします。この教材を活用して、本学の教育の基本理念である建学の精神の生成過程も学びます。	
	英会話	英語4技能のうち、聞く、話すの実践的な能力を身に付けます。本学の教育目標である家政に関する知識・技能をテーマとした英会話を実践します。また、本学の四大精神である真心、努力、奉仕、感謝の実践をロールプレイングを通して英語で話す練習を行い、基礎となる正しい発音、リズム、イントネーションを学び、英語で話す感覚を養います。また、英文法も併せて学び、練習問題を実施する中で聞く、話すを定着させ、生活に関わる地域社会の問題を会話することができるまで学びます。	

授 業 科 目 の 概 要

(家政学部こどもの生活学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 部 共 通 科 目	中国語	中国語の4技能の読む、書く、聞く、話すの基本的な能力を身に付けます。本学の教育目標である家政に関する知識・技能をテーマとした中国語を中心に学びます。また、本学の四大精神である真心、努力、奉仕、感謝について、中国語で学びます。基礎となる正しい発音、リズム、イントネーションを学び、中国英語で話す感覚を養います。また、英文法も併せて学び、日常的に使われる単語（名詞・助詞・形容詞・動詞・副詞など）を覚えて、会話の場面に適用する力を身に付けると同時に、発音練習・会話練習も行います。さらに中国事情についても随時紹介し、受講者が中国に関心をもてるよう進めます。	
	外国語分野 ハングル	本講義では、ハングル語で本学の教育目標である家政に関する知識・技能をテーマとして学びます。また、本学の四大精神である真心、努力、奉仕、感謝についても学びます。「ハングル」の文字体系（子音・母音・終声子音）を習得し、自ら読み書きができる。同時に簡単な会話や自己紹介ができる、また、日常的に使われる単語（名詞・助詞・形容詞・動詞・副詞など）を覚えて、会話の場面に適用する力を身に付ける。さらに文法においては「連体形・連結語尾・不規則用言（7種類の中で3種類を取り上げる）」を学び、難しい韓国語の表現を読み説く力を学修します。	
	日本語 I	これはCapilano大学からの留学生のための日本基本的文法のコースとして設置しています。コースは交換プログラムのための具体的な学校カレンダーに1週あたり1回実施できるようにセットされています。日本語 I では、本学の教育目標である家政に関する知識・技能をテーマとした日本語を学びます。また、本学の四大精神である真心、努力、奉仕、感謝の心を日本文化として学びます。さらに日本人の生活、社会問題等を文例として、日本語文法に慣れさせることを目的に実施します。具体的には読むこと、話すこと、書くことの4技能の初級レベルを修得します。	
	日本語 II	これはCapilano大学からの留学生のための日本基本的文法のコースとして設置しています。留学生個人個人の日本語レベルに対応します。日本語 I で学ぶ本学の教育目標である家政に関する知識・技能をテーマとした日本語をさらに深く学びます。また、本学の四大精神である真心、努力、奉仕、感謝の心も同様に継続して学びます。この日本文化、日本人の生活、社会問題等をさらに追及してさらに読む・話す・聞く・書くの4技能を使い初級レベル後半から中級レベルの総合的な日本語を修得します。	
	その他 単位認定A	学習の手引き「『第6章 成績および単位認定』第19条の2、別に定める検定試験および資格取得における学生の成績については、教育上有益と認める場合は、本学部における授業科目『単位認定A、B』の履修とみなし単位を与えることができる」としている。 資格・検定の種類は、①英検 2級、②漢字検定 準1級、③日商簿記 2級、④全商簿記 1級、⑤その他 上記に相当する資格・検定である。	
	単位認定B	学習の手引き「『第6章 成績および単位認定』第19条の2、別に定める検定試験および資格取得における学生の成績については、教育上有益と認める場合は、本学部における授業科目『単位認定A、B』の履修とみなし単位を与えることができる」としている。 学部、学科が定めた講義・実習科目、産学官連携活動、高大連携活動、その他の1単位は講義15時間、演習は30時間、実験・実習は45時間とする。 専門学校で取得した単位、他大学で取得した単位、短大の既修得単位、海外研修単位とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(家政学部こどもの生活学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	コ ア 科 目	基礎演習 A	<p>大学での学びや、目標のためのプロセスを理解し、よりよい学修のための行動特性を伸張させるための科目である。そのためのツールとして「社会人基礎力」を用い、その意義や方法について実践的なエンカウンターワークなどを通して体得する。大学での学びの基礎、及び社会人としての教養を身に付けることを意図している。日本語についての理解を深め運用力を高めること、数学的論理的思考力を高め自然や科学についての理解を深めること、さらに新聞等を読むことで社会を考えることが目的である。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (山田禮子/4回) ガイダンス、関係性の構築、考えることの意義、保育についての考察 (久保田英助/4回) 保育者の役割、話す書く聞く概要、読むのポイント、書くのポイント (安江真由美/4回) レポートの書き方、議論、 (平宮正志/3回) グループでテーマに沿った調べ、発表、考察、まとめ</p>	オムニバス方式
		基礎演習 B	<p>基礎演習 B では、前期の基礎演習 A を踏まえ、大学の講義全般についての大綱を具体的に学修し、その活動から思考能力、表現能力の基礎を習得することを目的としている。さらに保育士や幼稚園教諭さらには小学校教員として身に付けておくべき基礎的な考え方、行動を学習する。幼稚園や小学校を見学し、幼児教育・小学校教育の実際について認識を深める。その体験を通して、職業倫理を構築するとともに、社会人たる基礎能力を身につける取り組みに積極的に参画する。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (山田禮子/5回) ガイダンス、大学の学び、地動説の考察、社会を見る考察 (安江真由美/5回) 園見学のための説明、園見学、園での披露課題準備 (平宮正志/5回) 小学校見学の説明、小学校見学、表現方法についての討議</p>	オムニバス方式
		基礎演習 C	<p>基礎演習 C では、基礎演習 A・B での学びを踏まえ、実習や就職に向けて、社会のルール・マナーを身につけるとともに、自己の生き方や進路についての考察を深める。働くことの意味を理解し保育職及び教育職としての倫理観を培うことを目的に、知識だけでなく、具体的行動ができるように実技を踏まえながら理解を深める。その体験を通して、職業倫理を構築するとともに、社会人たる基礎能力を身につける取り組みに積極的に参画する。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (前田治/5回) ガイダンス、社会人基礎力の理解 (白鳥清子/5回) 社会人基礎力におけるルールとマナー、実習の準備 (加藤彰浩/5回) 保育職・教育職につくための考察、自己理解を深める</p>	オムニバス方式
		基礎演習 D	<p>基礎演習 D では、これまでに習得した基礎演習 A・B・C での学びを踏まえ、実習や就職に向けて、自己の生き方や進路についての考察を深めたうえで、社会福祉施設における保育職の意義や役割について理解し、実践として繋げることができるようにすることを目的としている。また、これまでの社会福祉分野の学びを生かし、保育所での様々な「子育て支援」を学びながら、実際の実習において、何が自分の追求したいテーマなのかを明確にすることで、その先の学修に連結させる。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (前田治/7回) ガイダンス、社会福祉施設の保育職、実習の意義 (加藤彰浩/8回) 実習の準備、自己達成課題についての考察、実習施設に関する情報収集</p>	オムニバス方式
		専門演習 A	<p>保育士、幼稚園教諭、小学校教諭となるための知識と技能、および実践的指導力と創造性を身に付け、子どもの豊かな心と想像力を養うことができるようにすることが、この授業での目的である。そのために、職場・実習・就職活動でのマナー、こどもに対する理解、こどもに関わる問題についての視点を深め、こどもに関わる職業人としての基礎を身に付ける。その体験を通して、職業倫理を構築するとともに、社会人たる基礎能力を身につける取り組みに積極的に参画する。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (黒谷万美子/5回) ガイダンス、子どもに対する理解、木になる子への対応 (神谷裕子/5回) 職場でのマナー、部活動運営、学校教育での合唱の位置付け (塙佐敏/5回) 子どもに関する問題の考察、保育と小学校での課題、研究テーマ検討</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(家政学部こどもの生活学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コア科目	専門演習B	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭となるための知識と技能、および実践的指導力と創造性を身に付けることは「こどもの生活学科」のディプロマ・ポリシーの一つである。そして、この演習では、そのディプロマポリシーを踏まえ、社会へ出るにあたっての自身の考え方や意識、必要なスキルについて実践的に学修していく。また、その体験を通して、職業倫理を構築するとともに、社会人たる基礎能力を身につける取り組みに積極的に参画する。 (黒谷万美子/5回) ガイダンス、自己目標に関する考察、グループワークとディスカッション (神谷裕子/5回) 社会人としてのマナーとルール、実習の意義、実習準備、指導力とは (埴佐敏/5回) 職場の役割理解、自己分析、自己理解、授業のまとめ	オムニバス方式
	専門演習C	専門演習Cは、1年・2年生の基礎演習A～D、および、3年生の専門演習A・Bから継続し連結するプログラムである。学生自身が、自分の将来を見据えて「学びの主人公」となるような学びの追求をしていく。子ども生活学科での「学び」に必要な多岐にわたる知識の応用を目指すとともに、社会への適応力を磨いていく。また、その体験を通して、職業倫理を構築するとともに、社会人たる基礎能力を身につける取り組みに積極的に参画していく。  <オムニバス方式/全15回> (加藤みゆき/7回) ガイダンス、実習の振り返り、専門知識の発展、障害や虐待について考察 (西川愛子/8回) 専門知識の発展、家庭科を通じた社会性の応用、グループワークと発表	オムニバス方式
	専門演習D	専門演習Dは、1年・2年の基礎演習A～D、および、3年・4年前期の専門演習A～Cから継続し連結するプログラムである。学生自身が、自分の将来を見据えて「学びの主人公」となるような学びの追求をしていく。子ども生活学科での「学び」に必要な、多岐にわたる知識の応用を目指すとともに、社会への適応力を磨きます。その体験を通して、職業倫理を構築するとともに、社会人たる基礎能力を身につける取り組みに積極的に参画していく。	
専門科目	教職入門	教職入門では、現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての知識を身に付け、教職への意欲を高め、さらに教育職としての適性を判断し、自らが選択すべき教師像を創造することを目指す。教員を目指すことはこの社会の未来を支えることにつながるという課題意識を持たなければならない。そこで、この授業を通して、自らは将来何をすべきか、どうあるべきかを考える主体的、積極的、協働的な学び手になることを目指す。	
	教育心理学	本講義では、教育心理学の基礎とその応用を学ぶ。教育心理学という学問には、教育に関する事柄のみならず、人間の行動や人間関係全般を理解する上で非常に重要な知見が含まれている。まず教育と学習の心理学の基礎を学び、幼児・児童・生徒の個性や学級集団の特徴、教授学習の方法（障害のある幼児・児童・生徒の発達や支援を含む）について理解を深めていく。目標は、教育心理学の学習成果を発揮し、教育を特別な活動としてではなく、日常生活と連続したものとして考えることができるようになることである。	
	教育制度論	国民の「教育を受ける権利」の保障を使命とする教員には、教育関係法令の理解と遵守が求められている。本講義では、公教育が基盤としている法と行政に関する基本的知識、法理念の実現のためにとられている教育制度の概要と学校経営の構造、現代の教育改革の動向と具体的内容について学ぶ。加えて、近年特にその重要性が指摘されている「学校安全」に関する取り組みや制度についても学ぶ。特にあらたに改正された教育基本法に焦点を当ててそれを概説し、教育制度の基本原則とその仕組みを理解する。	
	教育原理	日本だけではなく、世界の経済・社会の急激な変化にともない、これからの私たちの「生き方」これまでとは大きく異なっていくことが予想される。教育の現場においても新しい課題や問題に即座にかつ的確に対応していかななくてはならない。このような混迷をきわめる社会において、子どもは幸福に生きていくための態度やスキルを身に着けることはもちろん、そもそも幸福とは何かについて自分なりの考えを築いていかななくてはならない。では、学校や教員はどのような存在であるべきなのか。本授業では、教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。	
共通領域	教育方法論	本授業では、教師の資質能力の育成を基本理念とし、教育方法とその技術に関わる基本的概念・内容の枠組みを理解する。教育方法の実践的内容については、学習指導案づくりや授業記録の読み取り等の体験学習を通して、十畝力を習得することを目的として行う。また、毎授業の進め方は基礎的内容の理解を土台として行い、必要に応じて適宜話し合い活動等を取り込んで、実践的な理解の習得や主体的な態度とともに、自己効力感の育成にもつなげていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
(家政学部こどもの生活学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	共 通 領 域	教育課程総論	学校は、良き社会人となるための人格形成を目指す修養の場であり、世代間の文化継承の場である。学校では、国が定めた「学習指導要領」ないしは「幼稚園教育要領」に基づき、地域や各学校・園の特色を生かした教育課程を編成し、その教育課程に従って、専門職である教員により教育活動が行われる。本授業ではこうした教育課程の意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。	
		特別支援教育論	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。過去には特殊教育と呼ばれ、その後特別支援教育へと移行していた障害児教育は、いま大きな転換期を迎えている。教育体制や教育現場の変革の状況を、障害児教育の発展過程をたどりながら、特別支援教育の本質や原理、教育課程を学ぶ。そして各種の障害の事例とそれらに見合った教育方法を特別支援学校・学級の指導・支援、自立活動等について概観し、その在り方、方法などについて学ぶ。	
		教育相談（カウンセリングを含む。）	教育相談とは、幼児・児童及び生徒が、自己理解を深めたり、好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援するための教育活動であるといえる。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、実践的支援をするために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けることを目標としている。	
		教育経営論	教育経営を語る時、つい学校経営に主眼が置かれる向きがあるが、教育を学校という枠に限定せず、家庭教育や社会教育など全体的に捉え、生涯にわたる教育を総合的に把握した教育の経営という視点が必要である。「教育は地域社会全体で」の立場が定着しつつある今日の学校・家庭・地域・行政が一体となった教育環境づくりの意義、実態、方法、課題及び教育政策等について考える。また、学校における教育活動を行う際、地域に開かれた学校づくりのもとに、学校と地域住民・保護者等との連携が求められていることに伴う学校改善について考える。	
		I C T 教育実践演習	現代の教育環境は、コンピュータ技術の導入によってかつてとは大きく様変わりした。ICT機器を用いた授業が展開される中、技術的な面の知識を持ち合わせないことには、授業構想を立てることも難しい。そのため、新しく導入される授業形式や教材に対する知識と、それらを使いこなすための技能を習得し、さらにどのような授業形式によって新しいタイプの授業を構築するかを実践的に機器やネットクラスルームシステムを使用しながら考察し、指導法を修得する。	
		幼小連携	5歳児と1年生の学びをつなぎ、なめらかな接続を図ることや幼小連携の現状・課題・方策等について研究する。そして、連携カリキュラムの作成や実践事例から見えてきたことや連携において大切にすること等について研究する。具体的には、小1プログラムの実態を知り、原因を考察したり、幼小連携交流の具体的なあり方を観察し、それをもとに調べたことをプレゼンテーションとして発表して、幼保小の接続時におけるカリキュラムの構造を理解する。	
		教職実践演習（幼・小）	教職実践演習は、教職課程履修者が、実践的指導力を確実に身に付けられるように最終年次に設置された科目である。こうした目的を強く意識した内容構成となっており、すなわちこの演習は、時代・社会の変化や子ども・青年の変容を適切に捉え、学校教育が抱える様々な課題に、反省的かつ協働的に向き合えることのできる基礎能力の育成を目指す。最新の教育に関する研究動向を踏まえ、事例研究、グループ討議、場面指導等を適切に組み合わせ進めていく。現地見学は、系列幼稚園や近隣の小学校の協力を得て実施する。	
		こども生活学概論	人々の日常生活を子育ての面から支援するために、子どもの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てるためには何が必要かを、子どもを取り巻く生活環境という視点から考えるための導入としてこの授業を設定する。子どもの心身の発達、子どもと家族の関係、子どもを取り巻く環境の変化、子どもの成長および地域社会との関連などについて、総合的な視野を持つことの大切さをフレーム構造として理解していく。また、諸外国と教育方針などを比較検討することで、日本の教育における現状と問題点を分析し、それを通して人々の日常生活や現代社会における子どもに関わる仕事の重要性についての理解を深める。	
		こども生活学Ⅰ	子どもが育つ基盤である家族と家庭生活の現状を理解し、子どもの保護者や子どもを取り巻く人々の悩みや困難を理解し、親子関係や家族関係の在り方について理解する。また、子どもの生活と子どもの心身発達に関する知識を修得し、子どもを生活と学びの主体として育てることの重要性を学ぶ。さらに、時代の変化に伴う子どもを取り巻く様々な問題（児童虐待、家庭内暴力、いじめ、不登校、子どもの貧困など）に対して、どのように対処すべきかを、教育的視点から考察していく。	
		こども生活学Ⅱ	この授業では、家政学の視点からみた人々の日常生活を支える教育や子育て全般について、総合的な視座を持った学修を行う。子どもを取り巻く環境の変化や、国際的な視野に立った教育や子育てのあり方、日常生活における教育の重要性を認識し、教育や子育てに関する知識を用いた実践例を分析し、現代社会における「こども生活」を俯瞰しながら実社会に対峙できる知識と能力を養っていく。さらに、日本の独自性になぞらえながら、さらに持続可能な教育を構築するための方策について思索を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(家政学部こどもの生活学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  幼 保 領 域	社会福祉	本講は、こども、障害者、女性、高齢者、経済的困窮者などに代表される社会的弱者（制度的弱者とも言う）の福祉の増進と権利の擁護、及びそのための援助の方法、技術、また行政政策、福祉を考えた社会的な基盤を包括的に学ぶ。また、社会生活上のハンディキャップをもった人が一緒に暮らしていける社会がノーマルな社会であるという認識のもとに、支援を必要とする人が最適なサービスを選択できるようにするための、仕組みや政策を学ぶ。	
	子ども家庭福祉	保育者（幼稚園教諭及び保育士）として子どもやその家庭に関わるにあたって、それらの生活実態の変化と福祉ニーズ、子どもの権利条約、児童家庭福祉に関する法・制度とサービスの体系について、その概要の理解する。また、その理解を通して、家庭における福祉のあり方を調査することで家庭福祉の概念を確実に身につけるとともに、家庭福祉に関する社会整備について考察をして実社会での実情を把握しながら、家庭福祉の未来についての理解を深める。	
	保育原理	保育について基本的な知識を身につけ、保育の意義や制度、保育の思想と歴史の変遷などを学ぶ中で、保育を多面的に見る力を養う。保育の実践を支える理論的な基礎を構築するために、子どもを理解する大人（保育者・保護者）が人間をどう理解して、育てる営みへつなげてゆくのかを考え合う。特に保育者の専門性を深めるための基礎概念を解説し、学び続ける保育者像を各自に構築し、現代に求められている「保育」の意味や役割を考察する。	
	保育者論	「保育者はいかにあるべきか」と理想を語ることは容易であるが、一人ひとりのこどもたちの多様な育ちと生活とに介入しようとする者に求められる専門性とは、その時々々の必要や要求に応じた保育を考え、それを実践して展開することのできる保育者に自らを変えていく力の実質である。子どもと多くの時間を共有し、その成長に大きな影響を及ぼすことになる保育者の専門性に関して、保育職の意義、保育者の心構え、制度上の位置づけ等の側面から基礎的知識を身に付ける。さらに、具体的事例を取り上げ、保育者の役割について理解を深める。	
	子ども家庭支援の心理学	子どもを育てる過程で、親や夫婦、家族の中で、社会との関係で何が起きるのかを考える。また園が果たしうる支援、地域が担う支援とは何かについて理解する。生涯における発達に関する心理学の理論を学修することで、発達に関する課題について理解する。また、家族や家庭の機能、親子・家族関係を発達の観点から理解し、子育て家庭を取り巻く現代の社会的状況と課題を知ることで、子どもと家庭の環境を包括的に捉える視点を習得する。	
	保育の心理学	心理学の視点から、子どもの理解と子育て支援の方法を学び、保育の現場で役立つ発達や教育の知識を学ぶ。具体的には、子どもの発達に関する心理学的理論を学び、保育実践における発達を捉える視点、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基礎を知る。また、乳幼児期の子どもの学びの過程や特性を知ること、保育における人との関わり、体験、環境等の重要性を理解し、心理学的視座から、子どもとどのように関わることが求められているのかを習得する。	
	子どもの保健	小児の健康の意味を理解し、保育実践における、健康を維持するための保健活動の重要性を理解し、子どもの心身の健康状態の把握方法を学修する。また、子どもの疾病と予防法や他職種間での連携・協働の下での対応について学ぶ。段階として、ヒトとしての成り立ちから身体発育、生理機能の発達、運動機能の発達を学ぶ。また子どもの心の健康のために、疾病についての学修はもちろんのこと、保育環境整備と保険の関係について理解する。	
	子どもの食と栄養	保育および教育に関する専門職としての知識と技能を合わせもち、それらを主体的に活用することで、こどもの成長を支えるため、健康な生活の基本としての「食生活」の意義や栄養に関する基本的知識を学び、教育現場での「食育実践」の基礎づくりをめざす。具体的には栄養の基礎知識を理解した後、乳児、幼児等のライフステージごとに、その身体特性、取り巻く食環境、栄養摂取の特性、必要量、調理法、提供法等についても学んでいく。	
	子ども家庭支援論	家族の意味や機能を理解し、現代の家族の社会的状況や家族生活についての認識を広げ、子育てについての適切な相談、支援の必要性、行政や子育て支援サービスとの連携について理解する。家族支援が必要とされる社会的背景を概観した上で、家族社会学やソーシャルワークの理論をふまえ、効果的な支援のあり方や今後の課題について考察する。とくに、子ども・家庭福祉領域における予防的視点に立って、保育・子育て支援や障害児の家庭支援の実践に着目し、理論だけでなく、より具体的な支援方法についても検討を加える。	
保育内容総論	保育所保育指針の内容について「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連づけて総括的に解説する。保育の全体的な構造を理解した上で、実践事例に触れ、具体的な保育内容の展開と子どもの育ちについて理解をはかる。幼稚園、保育所における、保育の基本や「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示された保育内容を学ぶ。また、保育の思想と歴史の変遷について理解し、保育の多様な展開について具体的に学ぶことで、保育を総合的に理解する。		

授 業 科 目 の 概 要				
(家政学部こどもの生活学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	幼 保 領 域	保育内容（健康）	「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」をふまえ、幼稚園や保育所において展開される保育内容について、その意味や歴史的な変遷をはじめ、カリキュラムの展開や課題など、保育内容の各領域について理解する。乳幼児期の子どもたちの心と体の健康は、相互に密接な関連性をもっており、人や物などの多様な関わり合いのなかで、のびのびと体を動かして遊ぶことにより、諸機能（運動・認識・ことば）の発達が促される。さらに、遊びを体験していくなかで、体を動かす楽しさを味わい、安全について考え、自分の体について認識するようになっていく。本科目においては、子どもたちの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだすための、幼稚園・保育所（園）における領域「健康」のあり方について考察する。	
		保育内容（人間関係）	「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」をふまえ、幼稚園や保育所において展開される保育内容について、その意味や歴史的な変遷をはじめ、カリキュラムの展開や課題など、保育内容の各領域について理解する。保育所保育指針における「育みたい資質・能力」を実現するため、ねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解する。また、乳幼児の発達に即して、主体性・対話的で深い学びが表現する過程を知り、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。	
		保育内容（環境）	「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」をふまえ、幼稚園や保育所において展開される保育内容について、その意味や歴史的な変遷をはじめ、カリキュラムの展開や課題など、保育内容の各領域について理解する。領域「環境」のめざすものは、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことにある。子どもたちの健全な発達を保障していくためには、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。また、「環境」の具体的な場面を想定して、保育を構想する方法を身につける。	
		保育内容（言葉）	「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」をふまえ、幼稚園や保育所において展開される保育内容について、その意味や歴史的な変遷をはじめ、カリキュラムの展開や課題など、保育内容の各領域について理解する。保育者として幼児の成長を見守るため、また、幼児との適切なコミュニケーションをはかるために、『言葉』の意義を理解し、乳幼児期の言葉の発達過程にそった援助や指導方法をみにつける。また、児童文化財についての知識を深め、言葉遊びの楽しさや重要性を理解する。	
		保育内容（表現A）	「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」をふまえ、幼稚園や保育所において展開される保育内容について、その意味や歴史的な変遷をはじめ、カリキュラムの展開や課題など、保育内容の各領域について理解する。保育者は、幼児が心躍るような環境を整えることが求められる。体験的に学習する中で、しっかりと教材研究をおこない、作るだけでなく人前で演じる技術と方法を学び、自分自身が演じることを楽しみ、実践力を身につける。	
		保育内容（表現B）	「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」をふまえ、幼稚園や保育所において展開される保育内容について、その意味や歴史的な変遷をはじめ、カリキュラムの展開や課題など、保育内容の各領域について理解する。幼児の図画表現は、段階的な発達をするものである。この授業では、発達段階に応じた表現活動を理解しながら体験修得していく。また、幼稚園教員および保育士として、教育（保育）現場で実践的に役に立ついくつかの造形を修得し、幅広い知識を身につけるとともに、小学校での学びとの関連性を考察していく。	
		保育内容（表現・演劇）	「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」をふまえ、幼稚園や保育所において展開される保育内容について、その意味や歴史的な変遷をはじめ、カリキュラムの展開や課題など、保育内容の各領域について理解する。幼稚園教育要領に示されているように、幼稚園教育における領域「表現」では、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを培うことを目指している。この基本的な方向性をしっかりと把握し、領域「表現」のねらいと内容を学ぶとともに、その背景となる専門的な領域、および、子どもの発達に即して、主体的かつ対話的な深い学びができるような具体的な指導ができるような基本的な考えから、本授業では、幼稚園教諭・保育士に必要な専門的知識・技能を育成するため、その中でも特にオペレッタ等を含む演劇に焦点あてて、その技術と方法を身につける。	
		幼児教育指導法	幼稚園教育要領、保育所保育指針においては、保育の実践の場で柔軟かつ適切に活用できる実践力や応用力等の育成を志向している。このようなことに鑑み、「幼児教育指導法」は、他の必修科目で学んだ内容論や方法論を基盤に保育実習や将来の実践に結びつくような実践的指導力の育成を目的とする。5領域の内容を理解し、具体的に指導計画について学ぶ中で、子どもへの言葉かけや、保育者の援助、環境構成の重要性などを習得していく。	
		乳児保育 I	一般的に、乳児期は人間が最も成長する時期と言われている。それだけにこの乳児期に子どもがどういった環境にあるかが、その後の情緒や感情の形成に大きく関わってくるともいえる。乳児保育（3歳未満児）の意義・目的と歴史的変遷及び役割などについて理解する。さらに、3歳未満児の保育にあたって不可欠な、個々の発達を促す生活と遊びの環境、職員や保護者との連携・協働について学ぶなかで、乳児保育の現状と課題を考察する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(家政学部こどもの生活学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 域	乳児保育Ⅱ	乳児期は、人間が最も成長する時期と言われている。それだけにこの乳児期に子どもがどういった環境にあるかが、その後の情緒や感情の形成に大きく関わってくるともいえる。乳児保育(3歳未満児)に必要な知識・技能・態度を養う。また、子どもを取り巻く子育て環境の変化や、保育ニーズの現状を理解する。特に、具体的な3歳未満児の姿と関連づけながら、生活のあり方・援助の方法などについて専門的知識と実践技能を身に付ける。	
	子どもの健康と安全	子どもの健康と安全を守るためには保育の質の確保が求められる。子どもの体調不良等に対する対応について理解するとともに、感染症やアレルギー対策についてガイドラインやデータに基づき具体的に学修する。また、事故防止及び事故発生時の対応についてガイドラインに基づき理解するとともに健康及び安全の管理に関わる組織的取組について学ぶ。それに加えて、子どもの心の健康を維持するための措置として、どのような事例があるかを学ぶ。	
	障害児保育	障がい児保育の授業では、いろいろなタイプの障がいに対する理解と、その具体的な対応方法や技術の工夫を、実践事例を通して具体的に学んでいく。また障がい児の保育における注意点や、健常児と合同の保育場面を想定し、様々な発達援助の理解をねらいとし、複合的な保育活動なども扱っていく。障がい児保育は、障がい児のみを対象とするのではなく、クラス全体や園全体のどの子どもにも活用していくことが出来るものととらえ、学修する。	
	社会的養護Ⅰ	社会的養護とは、保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護や自立支援について理解するとともに、施設養護の実践について学び社会的養護の専門職、実施者としてあり方について学修を深める。また社会的養護の現状と課題について理解するとともに今後の方向性について学ぶ。	
	社会的養護Ⅱ	社会的養護(児童養護施設、乳児院など)と家庭養護(里親制度、養子縁組制度など)の違いを理解し、保育士としてこのような制度に暮らす子どもたちの課題、問題点を光を当て、どのような支援施策が進められているかを学ぶ。併せて施設実習に繋げる動機づけとして捉えられるよう授業を展開する。本授業を通じ、虐待などで保護された子どもたちの感情のコントロールの難しい子どもへの声掛けや、適切な距離感などをイメージ化し、暴言を吐く子どもへの対応など支援の難しい子どもたちへの理解につなげられるようにすることを目指す。	
	子育て支援	保育の専門性を背景として、保育士が行う保護者支援、子育て支援(相談、援助、助言、情報提供等)について学修し、その特性と展開について理解する。また、様々な場や対象に即した支援の内容と方法や技術について、実践事例等を通して具体的に理解する。それらを通して、子育て支援の体制や仕組み、実際の活動(食育・こころの健康・性に関する諸問題・子どもの事故防止など)について理解を深め、子育てのための支援の実際を、多角的に捉えながら学ぶ。	
	保育の計画と評価	保育は「計画」と「実践」と「評価」をサイクルにしてつくられていくことが基本であるが、そこであらためて見直していかなければならない計は、保育の「良い計画」「良い実践」「良い評価」とはどのようなものなのかとすることである。幼稚園、保育所、認定こども園における教育・保育の課程とは、どのようなものであるかを学び、保育の資質向上に不可欠なものであることを認識する。また、指導計画の作成、作成上の留意点などの理解を深め、実際に指導計画を作成する際に必要な基本的知識を身に付ける。	
	幼児理解	幼児理解は保育園・幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。保育園・幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義や、子どもの体験や学びの過程を理解することで、子どもへの理解と援助の具体的な方法を習得する。また、こども理解に基づく保育士の援助や姿勢の基礎について理解する。	
	こども文学	文学の読解、文学への理解は国語科の背景として重要である。そこで本授業では、「子ども文学」の歴史と現在を学ぶ。その特質を考察するとともに、主要な作品や作家について教員にふさわしい素養を身につけることを目指す。また、教員に求められる資質や能力について、認識を深められるようにする。本授業の教材である灰谷健次郎作『鬼の眼』は、新任の女性教師小谷先生が、学校では口をきかない1年生の鉄三に苦しみながらも向き合っていく軌跡を、様々な出来事や人々との交流を通して描いた作品である。	
こども文化	保育や教育に携わる者にとって、さまざまな地域の子どもが、現在どのような環境に置かれ、どのように生活しているのかを知ることは、大切である。本授業では、子どもの現在を知り、子どもを育むための自分なりの方法を模索する。具体的には、新聞記事を読んだ意見発表や、生徒指導状の諸問題(いじめ・不登校・携帯の扱い・暴力行為・自殺・虐待など)について様々な角度から調査を行い、グループにて発表し、課題となる観点をまとめていく。		
こどもの健康Ⅰ	・導入として、保育観の共通認識をおこなったうえで、「生活リズム・基本的生活習慣・安全生活・生きる力・遊ぶ力」の5項目について、トピックスをとおして基本の知識を理解し、併せて、現代っ子の健康課題を把握する。同時に学生自身の生活を振り返り、自身の健康課題を探り、修正の機会とする。 ・授業の最終段階では、学生自身が『保育者の卵』として、「養護される者から、養護する者へ」の変革期にいたることを認識し、健康な生活を送れる力の習得を目指す。授業内ではワークや課題に取り組む。		

**授 業 科 目 の 概 要**

(家政学部こどもの生活学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	幼 保 領 域	こどもの健康Ⅱ	心身の健康に関する領域「健康」の意義を捉える。子どもにとって健康は、現状維持という面だけでなく、健全な成長にとって必要なことでもある。このことについての理解を深めるため、まず子どもにとっての心身の健康とは、どのような状態を指すのかを理解する。その上で、幼児教育の場面で健康教育が必要とされる背景について、家庭や地域における子どもの現状から理解し、子どもにおける生活習慣の確立・自立と、発達の関係について学ぶ。さらに、子どもの健康を管理する具体的な方法や、運動遊びを通じた指導法について学ぶ。	
		こどもと人間関係	科目「保育内容（人間関係）」をさらに発展させ、子どもにとっての人間関係のあり方や、良好な人間関係を形成するために必要な知識や技術を学び、実践形式で具体的な事例をあげながら考察を深める。ややもすると個人的になりがちな現代社会の家庭状況を踏まえた上で、どのような関わりをすることが保育者として有効な手立てなのかを、保育園や幼稚園にさらには子育て支援センターなど実際の保育現場に向向いて体験的に実践的スキルを修得する。	
		こどもと環境	科目「保育内容（環境）」をさらに発展させ、子どもにとって快適に過ごせる環境設定を、良好な遊びを生み出せる環境のために、どのような配慮が必要かを学び、実践形式で具体的な事例をあげながら考察を深める。メディアがあふれ、ゲーム機やコンピュータが存在する中で誕生した現代の子どもがおかれている環境を考慮した上で、どのような関わりが保育者として有効な手立てなのかを、保育園や幼稚園にさらには子育て支援センターなどに向向いて体験的にスキルを修得する。	
		こども言語	様々な児童文化財の実践を通して、みなさんの「知っている」をさらに深め、新しい知見を得て児童文化財の意義を学ぶ。授業では、絵本や紙芝居の実演を積極的に取り入れ、保育における児童文化財の有用性を実際に体感できるようにする。また、幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」のねらいと内容を理解するとともに、乳幼児の言葉の発達過程、子どもの言葉の育ちを支える環境や保育者の役割について学ぶ。具体的には乳幼児期の言葉の発達、家庭に沿った援助や指導方法などを、ストーリーテリングや絵本の制作、手袋シアターなどの政策と技術を学ぶ。	
		こども表現（音楽Ⅰ）	将来、幼稚園教諭、保育士を目指す学生に必要な音楽の専門知識及び基礎的な技能を習得、また小学校教諭を目指す学生に必要な音楽科として基礎知識の習得を目的とした授業である。幼児に向けた指導及び児童に向けた指導を学ぶとともに、そのため、音楽の基礎となる理論をはじめ、歌唱分野、器楽分野を学ぶ。その手法としては、小学校唱歌を用いてウッドブロックやクラベス、ギロやトライアングル、カスタネットやタンブリンなど、アンサンブル奏法を修得する。  <オムニバス方式/全15回> (安江真由美/8回) 音楽理論の基礎、小学校唱歌、音符と休符、付点と付点休符、幹音名と派生音名、拍子と拍、リズムの記譜法、手遊び、打楽器アンサンブル、発表会 (白鳥清子/7回) ピアノ実技、成果発表	オムニバス方式
		こども表現（音楽Ⅱ）	子ども表現（音楽Ⅰ）を踏まえて、将来、幼稚園教諭、保育士を目指す学生に必要な音楽の専門知識及び基礎的な技能を習得、また小学校教諭を目指す学生に必要な音楽科として基礎知識の習得を目的とした授業である。幼児に向けた指導及び児童に向けた指導を学ぶとともに、そのため、音楽の基礎となる理論をはじめ、歌唱分野、器楽分野を学ぶ。その手法としては、小学校唱歌を用いてリズム遊びやまねっこあそび、ごっこ遊びや身体を動かす表現などを通して、表現と鑑賞の重要性を修得する。  <オムニバス方式/全15回> (安江真由美/8回) ガイダンス、長音階・短音階の理解、リズム遊び、伝承遊び (白鳥清子/7回) ピアノ実技、成果発表	オムニバス方式
		こども表現（音楽Ⅲ）	子ども表現（音楽Ⅱ）を踏まえて、将来、幼稚園教諭、保育士を目指す学生に必要な音楽の専門知識及び基礎的な技能を習得、また小学校教諭を目指す学生に必要な音楽科として基礎知識の習得を目的とした授業である。幼児に向けた指導及び児童に向けた指導を学ぶとともに、そのため、音楽の基礎となる理論をはじめ、歌唱分野、器楽分野を深く学ぶ。その手法としては、小学校唱歌を用いて鍵盤ハーモニカやピアノ、バルや有音程打楽器などを通して、表現と鑑賞の重要性を修得する。  <オムニバス方式/全15回> (安江真由美/8回) ガイダンス、メジャーとオーギュメント、マイナーとセブンス、ディミニッシュ、機能と和声 (白鳥清子/7回) ピアノ実技、成果発表	オムニバス方式
こども表現（図画工作A）	この授業では、主に「平面造形」における基礎的造形力を養うことを目的に課題制作を行う。表現伝達のための工夫や平面造形における基礎知識を学び、描画表現や平面構成の面白さや魅力について理解していく。またそれらを発展させて、美術的要素以外の日常的な課題によって造形感覚を磨き、表現全般の意義を理解する。その手法としては、フロッタージュやぬらし絵、色相環制作や色彩表現などを通して、表現と鑑賞の重要性を修得する。			

授 業 科 目 の 概 要

(家政学部こどもの生活学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
幼 保 領 域	こども表現 (図画工作B)	この授業では、主に「立体造形」における基礎的造形力を養うことを目的に課題制作を行う。表現伝達のための工夫や立体造形における基礎知識を学び、立体表現の面白さや魅力について理解していく。またそれらを発展させて、美術的要素以外の日常にある素材によって造形感覚を磨き、表現全般の意義を理解する。その手法としては、紙コップ造形や牛乳パック造形、画用紙加工造形や自然素材を用いたおもちゃの制作などを通して、表現と鑑賞の重要性を修得する。	
	保育実践演習	この科目「保育実践演習」とは、保育者として求められる必要な能力を身につけていく科目である。前半は、2年次2月の保育実習を振り返りながら問題点や課題を見つけ出し、それを踏まえてどのような能力を持つ必要があるのかを検討し発表を行う。そして、それを通して実質的な専門能力を養うことを目的とする。また、家庭との連携や特別支援等をテーマとして取り上げ、保育の現状と課題、保育ニーズの多様性等への関心を深めていく。  <オムニバス方式/全15回> (埴佐敏/8回) 保育実習の振り返り、法令の特徴、子育て支援とは、園の安全管理 (平宮正志/7回) 保育現場での表現方法、行動観察による気づき、特別な支援の必要な子どもの発達の違いや遅れに対する援助方法の計画	オムニバス方式
	地域と子育て支援	近年人々の生活様式や価値観も多様化している。子どもの育ちや子育てをめぐる環境も大きく変化し、核家族化が進行、効率優先の社会状況の進展等、目まぐるしく変化している。このような状況の中で子どもの育ちや子育ての状況を理解し、保育者としての子育て支援のあり方を考える。グループ活動にて保育所の子育て支援のあり方を探求し、児童館や子育て支援センターの機能・目的について学ぶ。そして子どもと地域を結ぶ遊びについて研修し発表する。	
専 門 科 目   小 学 校 領 域	国語科教育法	学校教育は、教育基本法や学校教育法等の法規に則って行われているが、具体的な指導内容は学習指導要領に従っている。本授業では、第1に、小学校国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解する。そして第2に、学習指導要領に示された学習内容について国語科教育論や国語科教育史を参考にしつつ理解を深める。そして、第3に、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業づくりの方法を身に付ける。	
	社会科教育法	歴史・地理・公民の学習指導との関連を踏まえて、グローバル化・高齢化・少子化などの現代社会の諸問題に対する多面的・多角的な見方や考え方、国際社会に生きる平和的な国家・社会の形成者など、小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について社会科教育論や社会科教育史を参考にしつつ理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業づくりを行う方法を身に付ける。	
	算数科教育法	この授業の講義の中で、学生自身が具体的に学べる数学的な活動を体験することにより、算数科授業の実践的な指導方法を身に付ける。そして、学習指導要領に示された「算数の各領域の目標・学習内容・全体構造」について理解を深め、基礎的な学習指導理論を踏まえた指導の方法を学ぶ。また、算数科授業の指導案の作成と模擬授業から実際の授業設計の方法と授業技術を学び、他者の授業の観察と意見交流からの確かな授業評価ができる力を身に付ける。	
	理科教育法	小学校理科教育の目標と内容を調べるとともに、これからの理科教育のあり方について学ぶ。また、教材研究や、指導案作成等についての具体的な活動を通して、理科の指導方法を身につける。講義中心に授業を進めるが、具体的な実践事例や実践課題を取り上げながら、必要に応じて、演習・討議活動を設定し、実践的な技能の育成を目指す。授業では、理科の授業づくりの学びとして、問題解決学習のための授業展開について学び、指導案の作成をおこなう。	
	生活科教育法	小学校低学年(1・2年生)の授業として枠組みがされている生活科の授業について、理解と実践力を習得する。そしてなにより教職に就いたときに、よりよい授業を展開できるようにするために、学習指導要領解説(生活編)に書かれている目標と内容、具体的な教材、指導方法、評価方法に関する知識や指導に必要なことを理解したうえで、実践的な授業の作り方を修得する。具体的には、実際の授業を想定した指導案作成を学び、実地調査など教材研究をおこない、最終的に模擬授業の実施にて完結する。	
音楽科教育法	この授業では、小学校教諭に必要な専門的知識・技能を育成するために、実際に音楽を演奏したりつくったりするという経験創作の形態をとりながら、子どもにとっての音楽の意味、学校教育における音楽科の位置などを考えていけるようにしたい。その際、知覚・感受による音楽の授業を体験しながら、実際に教師となったときにどのようなそれらを適用していくかという学びを大切にしたい。そのために、まずは学生自身が「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」という音楽的な見方・考え方を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通して質の高い深い学びへと繋げて体験することができるようにしていきたい。さらに、授業の実践的な力、教材の開発およびそれらの教材を授業化する指導案の作成をマネジメントすることを学ぶことができるようにする。同時にピアノや歌唱等の演奏技能に自信がなくても音楽の授業ができるように実践力を身につけてもらうことを目的とする。		

授 業 科 目 の 概 要			
(家政学部こどもの生活学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  小 学 校 領 域	図画工作教育法	美術教育の内容領域や歴史、関連法令、学習指導要領・指導要録及び、指導に必要な発達段階に関する知識等、図画工作科教育に必要な諸相を取り上げ講義するとともに、小学校低学年に必要なクレヨン・パスを用いた実技的演習を行っていく。そしてそれらによって、図画工作科の指導者として必要な「美術教育に関する知識と技能」を習得し、また教材研究に係わる能力及び意欲を培い、教科指導のための基礎的能力を養うことを目的とする。	
	家庭科教育法	学校教育において家庭科の学びの対象となる私たちの生活は、多面性をもち多様に変化し、多くの現代的課題を抱えている。その理解に立ち、家庭科教育の意義、小学校家庭科の目標、指導内容、指導方法、学習評価など、小学校家庭科の授業づくりに必要な基礎的理解を目標としている。その実践として、ソーイングや消費社会などの教材研究を行うとともに、模擬授業を行うことで、教師としての実践力を身につけるための学修をおこなう。	
	体育科教育法	体育科の基本理念である「体力を高める運動」をはじめとし、「体の動きを高める運動」および「体ほぐしの運動遊び」についての理解を深める。そのために学習指導要領を踏まえた「体育科」の考え方を理解する。次いで今日の体育授業の改善課題を指摘する。そして、正しい運動技術・戦術の理解に基づいた動感形成と学習指導案づくりを行う。小学校学習指導要領をふまえた体育の目標・内容・方法について理解し、授業の計画・実践・評価ができることを目標とする。学校現場への適応的アプローチを総体的テーマにする。	
	外国語（英語）教育法	小学校外国語（外国語活動を含む）教育の目標や内容を理解するとともに、小学校で求められる外国語教育のあり方について学ぶ。また、教材研究や指導案作成、さらに模擬授業を行うなど、具体的な学修を通して、外国語科の教育法・指導法を実践的に身につける。また、具体的な実践事例や実践課題を取り上げながら、小学校での実際の授業で活かせるように、講義と並行して、演習・討議活動を設定し、より実践的な技能の育成を行っていく。	
	特別活動の指導法	本授業では教師の資質能力の向上を目指し、全教育課程における位置づけをふまえた特別活動に関わる基本的概念・内容を理解させる。その実践的内容については、個人やグループによる指導計画づくりとその相互発表・討議を通して行う。また、毎授業の進め方は基礎的内容の理解を土台として行い、必要に応じて適宜話し合い活動等を取り込んで、実践的な理解の習得や主体的な態度の育成にもつなげていく。特別活動は、学校における様々なかたちでの集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる諸活動です。本授業では、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チーム学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識を身に付けます。	
	道徳教育の理論と実践	学校教育における「道徳教育」は、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるため（人間形成）の基盤となる道徳的判断力・心情・実践意欲と態度などの道徳性を養うことをねらいとしている。授業で学んだ能力を活用し、将来教職に就いたときに教育全般の要といえる道徳科の授業を、よりよいものとするために、道徳教育の理論を基にした実践的な授業の作り方についての理解を深め、その技能をを修得する。	
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとすることから、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものである。その点を鑑み、教育現場の特質に合わせた事例を中心として課題を設定し、それに対しどのような指導法が必要かを学ぶとともに、分散型事例と年間継続型事例とを組み合わせる指導法を習得する。	
	国語科（含む書写）研究	小学校国語科の学習指導要領に示された学習内容を教える者としての資質を養う。今日の子ども観、発達観は歴史的に大きく発展した。それに基づく国語教育における学力観、指導観や方法もまた多様に展開され、その中で教師の実践を基に国語教育の理論化も深められてきた。国語教育の実践と理論を学ぶことを通して、子ども・生徒をどうとらえ、同僚教師との同僚性を育てながらどのように指導計画を組み、どのように指導していくのかという、国語科教育の基本的理論と応用力、実践力を身につけると同時に、文学・文学史・文法・書写の基本も学ぶ。	
社会科研究	社会科は、学習の主体者である生徒が、社会事象をしっかりと見据えた社会認識の下、民主的な主権者としての公民的な資質の基礎を培っていく教科である。本講義では、まず、社会科の地理的分野については、社会科教育の理念について学ぶとともに、実際の授業方法について、発表や模擬授業なども含めできるだけ実践的に学んでいく。具体的には、社会科教育でとりわけ重要である教材の内容や教材研究の仕方、学習指導案の作り方、授業実践の仕方、視聴覚機器をはじめとする教育機器の使用などについて学んでいく。社会科の歴史的分野については、民主主義を担う主権者としての基礎を培うこと目的に、戦後社会科の中から生みだされた実践に学びつつ、社会科の授業づくりに取り組む。特に歴史教育に視点において、生徒の歴史認識を深める授業とはどのようなものか考える。		

授 業 科 目 の 概 要			
(家政学部こどもの生活学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  小 学 校 領 域	算数科研究	学習指導要領に示された「A 数と計算」「B 図形」「C 測定」「D 変化と関係」「E データの活用」の5つの領域について、その目標・主な内容、そして全体構造を理解するための学修を行う。算数科の学習内容について、背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用する。子どもの認識・思考、学力を考慮しながら「数学的活動」を生かす指導方法を学ぶ。算数科の体験的・発展的な学習指導に着目した授業設計について学ぶ。	
	理科研究	小学校理科の3～6年生の内容区分「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」を取り上げ、指導案の作成、模擬授業、授業検討(協議会)という一連の演習を通して、小学校理科の目標・内容を理解するとともに、教材の取り上げ方、授業の進め方を実践的に学び、基本的な授業技能を習得する。その能力習得のために模擬授業を行い、個人における授業力を習得しながら、教材研究を通して理科の面白さや楽しさを子供に伝えられる技術を獲得する。	
	生活科研究	「子どもによる授業」を敷衍する作業・発表を通して、考え(自分が保育士・幼小教諭として活かすこと)を整理・文章化する。そして、アサガオとの対話活動や働く人へのインタビューをもとに作成した紙芝居発表による模擬授業を通して、言語活動の充実を図り、知的な気付きを高める指導法を習得する方法を研究する。具体的には、学内のフィールドリサーチによって見出した内容をパワーポイントを用いて発表し、グループでのディスカッションの機会とする。	
	音楽科研究	小学校音楽科の授業は、技能中心だと思われるが、必ずしもそうだとは言いえない。知覚・感受を通して子どもの感性を育む上で欠かすことのできない情操教育の一翼を担うものである。この点が例えば算数や理科などの教科と異なり、子どもの「心の中のイメージ」を表出するという点が大きな特質である。本授業では、小学校教諭に必要な専門的知識・技能を育成するために、学習指導要領の理解から模擬授業の構想・実践・分析までを行う。	
	図画工作研究A	小学校での授業実践を想定し、学習指導案の作成や模擬授業を実質的に体験するための学修をする。基本的な指導案のフレームワークを理解した上で、模擬授業のための授業構想を考える。それをもとに指導案を作成し、模擬授業を行うことで、授業計画に対する検証をするとともに、教育現場での実践力を身につける。また、毎回の模擬授業後の総括によって、図画工作が教科として何を伝えるのかを理解し、次回以降の模擬授業に活かせる理解を深める。	
	図画工作研究B	図画工作研究Aで身につけた授業構成力と実践力をさらにレベルアップするために、実践課題を取り上げながら授業構成と実践方法を学ぶことで、教育現場での実践力を身につける。また、教材研究の具体例を取り上げながら、子どもたちに図画工作の楽しさや意義を伝えるための研究を深化させる。また、成績評価に対し「授業の目的」や「本時のねらい」などから読み取る力を身につけ、教育現場におけるの評価方法についての認識を深める。	
	家庭科研究	授業づくりをする上で必要となる年間指導計画作成の手順を理解し、作成する。また、評価の意義と目的を理解し、指導と評価の在り方について考える。家庭科の指導内容の中の「衣食住の生活」の中から、調理と被服製作の基礎を押さえた実習を行うことにより、実習指導における指導のポイントをつかむ。家庭科の目標、内容、指導方法、評価等についての理解を深め、指導案作成に向けての手順と配慮事項をもとに、ねらいを明確にした指導案を作成し、模擬授業を行う。そして、授業改善のための授業分析を行うことにより、授業力向上に向けて努力する教員としての資質を養う。	
	体育科研究	小学校学習指導要領体育科において、体育の目標はもとより、第1学年から第6学年までに設定された目標を知り、その内容として位置づけられた各領域の学習内容、加えて体育理論についても理解する。その上で、小学校現場における優れた教育実践、民間教育団体の実践を比較検討しながら、体育の授業づくりについて学ぶ。ここでは、教科内容の明確化、教材選択の方法、教材開発・教材づくり、教授行為、評価という授業づくりの核となる作業への理解とその実践力を身につける。	
	英語科研究	小学校段階では、言語や文化に対する関心や意欲を高めるのに適していることから、英語を使った活動をするを通じて、国語や我が国の文化を含め、言語や文化に対する理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、国際理解および国際コミュニケーション能力の伸長を図る授業を行う。また、外国語活動では音声柔軟に受け止める能力の育成が求められているので、それに見合った指導ができるようなコミュニケーション実践を、この授業内でも行っていく。	
	小学算数	学習指導要領に示された「A 数と計算」「B 図形」「C 測定」「D 変化と関係」「E データの活用」の5つの領域について、その目標・主な内容、全体構造を学ぶ基礎的な学習指導理論を理解し、基本的な授業技術を身に付け、学習内容に応じた情報機器や教材を効果的に活用する視点を身に付ける。学習指導案の構成を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計に生かせる指導案を作成する。模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。	
小学家庭	小学校家庭科で必要となる「衣・食・住」に関する知識をさらに深く身につけるとともに、日常生活においてどのように生かしていくかという課題に対する生活全般の基礎知識と基礎技能を位につける。そしてそれを子どもに指導する上で、どのような方法がふさわしいかを、模擬授業などの体験的な学びによって習得する。衣の分野では布とその扱いに対する知識と技能を深め、食の分野ではアレルギーや栄養学の見地から知識を深め、住の分野では生活環境という視点で、主体的な学びができるよう事例研究を基にした授業を展開する。		

授 業 科 目 の 概 要				
(家政学部こどもの生活学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	小 学 校 領 域	児童音楽	音楽科研究で学んだ「小学校教諭に必要な音楽に関する専門的な知識・技能」の育成をさらに深め、知性と感性を磨くための指導法を「指導案作成」や「模擬授業」をとおして実践的に行うとともに、評価分析法についても修得する。特にこの授業では、感性を鍛えるための授業法修得を主眼にして、さまざまな事例課題を参照した授業構成によって、より実践力のある教諭を育成するための内容として展開する。また、ピアノ等の楽器に対する指導法や、器楽合奏会をイメージした楽団構成の方法や楽曲選定の方法などについても学ぶ。	
		児童体育	小学校で体育科で指導する際に必要となる様々な教材について、教育現場と子どもの実情を踏まえ、事例課題を中心授業を行なっていく。また、体育の授業だけでなく、「運動会」や各種運動系の学校行事についても指揮指導が行えるような能力を、実践例をあげながらグループ活動として考察および発表を行う。また体育科研究で実践した教材をさらに発展させた独自の教材を考え、それらの問題点や効果的な点などを検討することで、教育現場での実践力を高めていく。	
		児童英語	英語科研究で培った指導能力をさらに実践的に育成するため、国際コミュニケーションに焦点を当て、様々な英語表現を日常生活のレベルを基準に学修する。これは小学校で学ぶ英語を中学校の英語に連結させるための学びで、中学英語の基礎を成す語学知識を修得し、それをもとに、小学生に英語を教えるにあたってのバックボーンを育成するための指導法を身につける。グルーピングによる対話形式の授業にて、英語で話すことに対する躊躇感を払拭するとともに、国際理解のための文化学修と連携させた対話の指導法を身につける。	
		生徒指導論	生徒指導は、学校が教育目標を達成するために重要や役割を果たし、児童生徒の変化等によって、近年ますます重要になっている。ここでは、学校現場における実践記録等を通して、生徒指導の基本原理、児童生徒の心理的特質、生徒理解の方法などについて考察していく。同時に、進路指導やキャリア教育についての基本的理解をはかりながら、進路指導と受験指導の異質を正しく認識し、適切な進路指導及びキャリア教育を実践していく方法について考察していく。また、生徒指導は、本来、一人ひとりのよさ、可能性を発見し、豊かな自己実現を図ることを目指す「生き方の教育」に通じるべきものである。したがって、教科学習の指導や子どもの生活上生じる様々な不適応行動への対応、支援だけでなく、子どもたちが豊かな個性を発揮し、自立していくプロセスを援助することが求められる。こうした観点から児童生徒のみならず家庭、地域、専門機関とのつながり、かかわりを通じた指導、援助の方法について理解を深めながら、子どもの「生き方の教育」としての生徒・進路指導について、基礎的・実践的な力量を養うことを目指す。	
		進路指導論（キャリア教育を含む。）	進路指導は、生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。本科目では、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	
	実 習 （ 学 外 ） 領 域	保育実習指導Ⅰ	保育実習の目的を理解し、事前に、実習生としての心構え、欠席や遅刻をしない勤務態度、誰に聞かれても恥ずかしくない言葉使い、保育者や子どもに接する態度、実習記録や指導計画の作成などの準備活動を進めていく。一方で、他教科での実習先にまつわる学習を思い起こし、実習先に対する理解を再確認する。その上で、実習先でのオリエンテーションに臨む。実習後は感想や反省点を出し合い、学生同士が話し合う中で、共通の問題意識を持ったり考えを深めたりする。	
		保育実習Ⅰ	保育士資格取得に必要な保育実習は、保育実習Ⅰ、施設実習、保育実習Ⅱ（保育所）または保育実習Ⅲ（施設）である。そのうち、本学科ではじめての学外での実習としてこの保育所実習が設定されている。この保育実習を通して理解する項目は、保育所の役割、乳幼児の活動の実践的理解、保育現場の環境構成、保育者の役割と責務の把握を図ることであり、その理解による解釈をどのように実践的に生かすかを体験するのがこの実習の主目的である。	
		施設実習	保育士資格取得に必要な保育実習は、保育所実習、施設実習、保育実習Ⅱ（保育所）または保育実習Ⅲ（施設）である。そのうち、本学科で2回目の学外での実習としてこの施設実習が設定されている。この実習を通して、児童福祉施設における養育のあり方を学び、保育者の役割と責務の把握を図ることを、目的としている。具体的には、児童福祉施設の役割と機能、観察実習の具体例、研究保育の考察、そしてその評価などについて体験的に学ぶのがこの授業である。	
		保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰでの保育所と施設の実習経験、既習の教科内容を踏まえ、二度目の保育実習にむけて事前指導を行う科目である。より実践的な学びと、よりよい保育の展開のための総合的な学びを進め、豊かな保育実践力を身に付ける。実習の意義や目的を知り、保育所での保育の映像を鑑賞することで場面理解をし、指導案を作成して、それに基づいた模擬保育を行う。また、心構えや態度、日誌等の扱いについて解説し、保育士としての職業倫理について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(家政学部こどもの生活学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	実 習 (学 外) 領 域	保育実習Ⅱ (保育実習)	保育士資格取得に必要な保育実習は、保育所実習、施設実習、保育実習Ⅱ (保育所) または保育実習Ⅲ (施設) である。本学科におけるこの実習は、第3段階の学外本実習として設定されている。先の保育所実習の段階を踏まえ、実習経験の集大成である指導実習を行う。そしてさらに、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども・家庭・福祉のニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うことを、目的としている。	
		保育実習Ⅲ (施設実習)	これまでの保育実習を踏まえて行うのが、保育実習Ⅲである。保育内容を学ぶために、保育の計画 (保育課程・指導計画) がどのように実践の場で実施されているのか学ぶ。そのための保育技術もあわせて学ぶ。また、これまでの社会福祉分野の学びを生かし、保育所での様々な子育て支援を知る中、実習において何を自分の追求したいテーマなのかを明確にしていく。そして、実習を単なる体験にとどめるのではなく、人生における価値として受け止めるようにします。	
		教育実習指導 (幼)	教育実習を実施するにあたり、これまでに学んだ教職課程科目を教育実習生として求められる知識や技術を実際の教育現場において使うことができるように再確認していく。また、実習生に求められる姿勢や具体的な実習記録簿の書き方・教育実習中の心得・規則等についても過去の事例から必要なことをピックアップして説明し、教育実習で正しく成果が出るよう指導をしていく。実習後は感想や反省点を出し合い、学生同士が話し合う中で、共通の問題意識を持ったり考えを深めたりする。なお、実習後の事後指導については実習終了後に行う。  ＜オムニバス方式／全15回＞ (久保田英助／8回) ガイダンス、子どもの発達段階の理解、実習生の1日の流れ、外部講師の講演、責任実習について、5領域の確認、実習課題の立て方 (安江真由美／7回) 指導案を基にした模擬授業、実践した模擬授業の分析と討議	オムニバス方式
		教育実習指導 (小)	教育実習を実施するにあたり、これまでに学んだ教職課程科目を教育実習生として求められる知識や技術を実際の教育現場において使うことができるように再確認していく。また、実習生に求められる姿勢や具体的な実習記録簿の書き方・教育実習中の心得・規則等についても過去の事例から必要なことをピックアップして説明し、教育実習で正しく成果が出るよう指導をしていく。実習後は感想や反省点を出し合い、学生同士が話し合う中で、共通の問題意識を持ったり考えを深めたりする。なお、実習後の事後指導については実習終了後に行う。  ＜オムニバス方式／全15回＞ (前田治／8回) ガイダンス、記録の書き方、模擬授業の単元を考案、教材研究、指導案作成の練習と指導 (埜佐敏／7回) 作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行い、それを検討し合う	オムニバス方式
		教育実習 (幼)	教育実習は、実際に園児や教職員とふれあうことを通して、幼児を知り、幼児を心身共に健やかに保護育成するための保育・教育の本質を理解し、学内で学んだ理論と技能を統合しながら、教師としての実践的な能力や使命感、保育精神を修得することを目的として設定されている。実践的な体験こそ、将来のビジョンを明確にするために必須である。なお、学内での事前・事後指導については、「教育実習指導」として、別に1単位設けられている。	
		教育実習 (小)	教育実習は、実際に児童や教職員とふれあうことを通して、児童を知り、児童を心身共に健やかに保護育成するための教育の本質を理解し、学内で学んだ理論と技能を統合しながら、教師としての実践的な能力や使命感、教育精神を修得することを目的として設定されている。実践的な体験こそ、将来のビジョンを明確にするために必須である。なお、学内での事前・事後指導については、「教育実習指導」として、別に1単位設けられている。	
		ボランティア活動 (介護等体験実習)	小学校教諭としての知識と技能を合わせもち、それらを小学校で主体的に活用することで、こどもの成長を支えることができるようになるために、2年次 (2日間・特別支援学校) と3年次 (5日間・社会福祉施設) で事前指導及び事後指導、学外実習を行う。これは、実習先での活動概要と目的の理解から始まり、実習実施時の注意事項を知り、実際の実習を体験する。そしてその後の実習の振り返りをレポートにまとめ、自身の体験を見直す。	
		エクスターンⅠ	この授業は、教育現場を体験するための「教職ボランティア」として設定されている。自身の希望する教育機関や保育機関へのショートタイプ (毎週1回の短時間活動) のインターンシップである。構成としては、事前指導から始まり、見学体験や実際の活動の支援を通して、職業倫理とともに活動の意義やねらいを体得する。また事後報告会を行い、それぞれが経験してきたことを報告する中で、諸事情についての共有理解の機会とし、今後の実習等への参考材料をしていくことを目的とする。  ＜オムニバス方式／全15回＞ (山田禮子／8回) エクスターンシップボランティアに関する事前調査、現場でのマナーやルールの確認、事前準備の指導 (埜佐敏／7回) 活動報告の確認とそれに基づく評価、活動の振り返りと教育に関する討議	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(家政学部こどもの生活学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目  開 拓 領 域	実習 (学外) 領域	エクスターンⅡ	この授業では、エクスターンⅠで培った能力をさらに深化させるための機会として設定する。構成としては、事前指導から始まり、見学体験や実際の活動の支援を通して、職業倫理とともに活動の意義やねらいを体得する。また事後報告会を行い、それぞれが経験してきたことを報告する中で、諸事情についての共有理解の機会とし、今後の実習等への参考材料をしていくことを目的とする。エクスターンの機会を有効に活用し、職業理解を深める。 <オムニバス方式/全15回> (山田禮子/8回) エクスターンシップボランティアに関する確認事項、事前調査、目標設定に関する指導、現場でのルールとマナーの再確認」 (埴佐敏/7回) 活動報告の確認とそれに基づく評価、活動の振り返りと教育に関する討議	オムニバス方式
		キッズイングリッシュⅠ	この授業は、専攻独自設定科目として、幼児及び児童のコミュニケーション能力伸長のための科目として設置する。平成23年度から、小学校の高学年において、英語が必修化された。そこでこの授業では、幼・保・小・の連携を視野に入れた児童英語教育を特に実践面から考察する。単にコミュニケーションというだけでなく、グローバルな視野や国際感覚を身につけるための基礎として、外国語をいかに楽しく学ぶかを学修し、子どもに英語等を教えるにあたっての技術力を身につけるとともに、語学学修の方法論を検討する機会とする。	
	キッズイングリッシュⅡ	この授業は、キッズイングリッシュⅠの発展科目である。この授業では、幼・保・小・の連携を視野に入れた児童英語教育を特に実践面から考察する。スポーツ・文化・美術・料理・遠足など多彩なレッスン内容を英語で行う。英語によるレッスンを受けることで、学生が自然に英会話力や国際感覚を身につけることを目的としている。幼稚園・保育園、認定子ども園、児童館、放課後児童クラブなどで、英語を使って、子ども達に英語に親しむ機会を提供できる知識・技能と指導力を修得できるよう実践的学習を行う。		
	学泉アカデミーA	この授業では、主に「声を出す」こと「自分の言葉で伝える」ことの重要性を実質的な演習として学ぶ。言葉とともに音を意識することから始まり、最終的には「読み聞かせ」ないし「合唱」という形で完了する構成とする。そして根源的な意味で、ヒトが声を出すという仕組みや意義を考察し、それが何らかの形で意思を形成するというプロセスを体験することで、発声というものの意味について理解し、行為として発信できる能力を養うことを目的とする。		
	学泉アカデミーB	この授業では、主に「絵で表現する」ことの重要性を理解した上で、実際に「イラスト」として描く技能を身につけ、表現力の基礎上げを目的としている。描画による表現の簡易性を体験的に理解するとともに、技術不足による落胆から描画に対する自信をなくしてしまった学生の表現意識を再喚起することと、描画に対する自信を持つことを目的としている。また基礎技術のある学生には、さらなる技術向上によって自身の画力を磨く機会とする。		
	学泉アカデミーC	この授業では、ダンスを主たる要素としておこなうが、より基本的な身体運動の喜びに気づくことが始まりである。その喜びを拡大させていくことで最終的に、グループによるダンスパフォーマンスの披露という点にまで昇華させる。それとともに、幼児教育における「体づくりの楽しさ」を教えられる意識を育成することと、小学校体育での「ダンス指導」の流れに対応し、誰でも楽しく自信を持ってダンスを教えられるようになることを目的とする。		
	学泉アカデミーD	この授業では、「アート」と「デザイン」の両軸の双方をうまく作用させることで、どのような発想力が鍛え上げられるかを体験的に学修する。アートもデザインも、フォーカスした対象を発想力によってピットに可視化させ、それを具体的に創造していくものである。アートとデザインをミックスさせることで、総合的なデザイン力を身につけることを目的とする。また、アートが持つ創造力を体験的に学修することで、表現の喜びとともに鑑賞の楽しみも味わうことを目的とする。		
	学泉アカデミーE	この授業では、子どもと関わることすべてに通底するレクリエーションについて学ぶ。レクリエーションは、協働性が求められるだけでなく、楽しむこと、目的遂行のための手立て、その計画、具体的なアクションといったような、社会生活における「PDCAサイクル」が詰め込まれた活動だといえよう。この授業では、レクリエーションに対する認識を明確にし、活動のための多様なノウハウを身につけることで、保育や教育でのグループ活動やアクティブラーニングの基礎を身につけることがねらいである。		
学泉アカデミーF	この授業では、色彩についての基礎知識を学ぶとともに、色彩が生活においてもたらす各種の効果について学修する。色彩についての知識をもとにした演習活動などを通して、色彩による心理的効果にまで迫っていく。そうした知識技能を習得しながら、最終的に色彩に関する総合的な学びの確認として、公認の「色彩検定」もしくは「カラーコーディネーター検定」にチャレンジし、検定合格を通して自身の能力を確実な形で把握できるようにする。			

授 業 科 目 の 概 要

(家政学部こどもの生活学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  ラ イ フ 開 拓 領 域	教職保育特論 1	<p>保育および教育職に就くにあたって必要な専門基礎と専門科目の基礎的内容を総合的に学ぶとともに、不足している知識の充足を目指す。多様で複雑な状況や文脈において生成される様々な人間の「学び」や「育ち」を、その状況や文脈との関係の中で捉えようとする理論的枠組みの変遷と展開について学び、「子ども人間学」的観点から、保育・教育という営みにおける様々な「学び」や「育ち」を捉えるための視座について検討する。その上で、それらの「学び」や「育ち」を支える多層的なケアリング関係の構造や構築過程を分析し、より豊かな「学び」や「育ち」に繋がる保育・教育実践の在り方を探究していくこととする。</p> <p>&lt;オムニバス方式／全15回&gt;                      (加藤万也／2回)                      保育に関する専門知識の獲得 (図画工作系)                      (黒谷万美子／2回)                      保育に関する専門知識の獲得 (健康系)                      (平宮正志／2回)                      保育に関する専門知識の獲得 (心理系)                      (加藤彰浩／3回)                      保育に関する専門知識の獲得 (運動・体育系)                      (加藤みゆき／3回)                      保育に関する専門知識の獲得 (コミュニケーション)                      (白鳥清子／3回)                      保育に関する専門知識の獲得 (音楽系)</p>	オムニバス方式
	教職保育特論 2	<p>保育・教育の現場において研究的実践ないし、創造性豊かな研究を進めるためには、保育・教育学研究の特質を理解する必要がある。そこで、この授業においては、研究対象である保育・教育実践の存在特性とそれを研究することの意味と方法について検討し、実践研究を「学」として確立するための基礎固めをする。授保育職を目指す学生には「模擬保育」を行うことで、保育に対する具体的なイメージ・シミュレーションを持つ機会とする。小学校教諭を目指す学生には、模擬授業の体験を通して、教職に対する具体的なイメージを持たせる。教職教養や一般教養についての補填もおこなう。</p> <p>&lt;オムニバス方式／全15回&gt;                      (前田治／2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (道徳教育)                      (久保田英助／2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (教育原理)                      (山田禮子／2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (国語)                      (西川愛子／2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (家庭)                      (塙佐敏／3回)                      教育に関する専門知識の獲得 (体育)                      (神谷裕子／2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (生活)                      (安江真由美／2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (音楽)</p>	オムニバス方式
	教職保育特論 3	<p>教職保育特論 1・2 で学修した基礎的内容を基にして、専門基礎と専門科目においてレベルアップをおこなう。また、不得意分野を再確認し、不足している知識の充足を目指す。また、保育職を目指す学生には「模擬保育」を行うことで、保育に対する具体的なイメージ・シミュレーションを持つ機会とする。いっぽう小学校教諭を目指す学生には、模擬授業の体験を通して、教職に対する具体的なイメージを持たせ、教職に対する情熱を養っていく。</p> <p>&lt;オムニバス方式／全15回&gt;                      (加藤万也／2回)                      保育に関する専門知識の獲得 (履歴書、自己PR)                      (黒谷万美子／2回)                      保育に関する専門知識の獲得 (乳児保育)                      (平宮正志／2回)                      保育に関する専門知識の獲得 (発達心理)                      (加藤彰浩／3回)                      保育に関する専門知識の獲得 (身体発達)                      (加藤みゆき／3回)                      保育に関する専門知識の獲得 (法規)                      (白鳥清子／3回)                      保育に関する専門知識の獲得 (音楽実技)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(家政学部こどもの生活学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  ラ イ フ 開 拓 領 域	教職保育特論 4	<p>教職保育特論 1・2・3 で学修した基礎的内容を基にして、専門基礎と専門科目においてさらなるレベルアップをはかっていく。また、学生自身が不得意な分野を再確認し、不足している知識・能力の充足を目指していく。具体的には、あらゆる場面で必要とされる「論作文の書き方」や「面接」での常識を学ぶとともに、自己をアピールする能力を養う。そうした学修によって、自身の持つ潜在能力を引き上げるとともに、無限の可能性に挑戦する精神力を身につける。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt;                      (前田治/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (面接ルール)                      (久保田英助/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (教育法規)                      (山田禮子/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (文学)                      (西川愛子/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (裁縫)                      (埴佐敏/3回)                      教育に関する専門知識の獲得 (運動)                      (神谷裕子/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (理科)                      (安江真由美/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (器楽)</p>	オムニバス方式
	教職保育特論 5	<p>教職保育特論 1・2・3・4 で学修した内容を踏まえて、保育および教育職に就くための資質として必要な要素を、すべて習得することをこの科目の目標とする。全ての分野において不得意分野をできるだけなくし、かつその分野のレベルアップをはかる。特に一般教養や専門教養についての学修の仕上げ段階と設定する。そうした学修によって、自身の持つ潜在能力を引き上げるとともに、無限の可能性に挑戦する精神力を身につけ、自己効力感を十全に身につけることを目標とする。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt;                      (加藤万也/2回)                      保育に関する専門知識の獲得 (面接マナー)                      (黒谷万美子/2回)                      保育に関する専門知識の獲得 (健康)                      (平宮正志/2回)                      保育に関する専門知識の獲得 (心理)                      (加藤彰浩/3回)                      保育に関する専門知識の獲得 (運動)                      (加藤みゆき/3回)                      保育に関する専門知識の獲得 (法規)                      (白鳥清子/3回)                      保育に関する専門知識の獲得 (音楽実技)</p>	オムニバス方式
	教職保育特論 6	<p>教職保育特論 1・2・3・4・5 でこれまでに学修してきた内容を踏まえて、保育および教育職に就くための資質として必要な要素を、すべて習得すること目標とする。全ての分野において不得意分野を克服し、さらなるレベルアップを行っていく。特に一般教養や専門教養についての学習の総仕上げの第1期とする。そうした学修によって、自身の持つ潜在能力を引き上げるとともに、無限の可能性に挑戦する精神力をより強固なものとして身につける。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt;                      (前田治/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (集団討議)                      (久保田英助/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (教育史)                      (山田禮子/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (読み聞かせ)                      (西川愛子/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (栄養)                      (埴佐敏/3回)                      教育に関する専門知識の獲得 (体育)                      (神谷裕子/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (法規)                      (安江真由美/2回)                      教育に関する専門知識の獲得 (音楽理論)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(家政学部こどもの生活学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	ラ イ フ	<p>これまでの教職保育特論1～6で学修したすべての内容を踏まえて、保育および教育職に就くための資質として必要な要素を全て習得することを目指す。特に「面接」と「論作文」、「模擬授業」、「集団討議」などにおいて、確実に自己の能力を引き出せるような研鑽を積み、学修の総仕上げの第2期と設定する。そうした学修によって、自身の持つ潜在能力を引き上げるとともに、無限の可能性に挑戦する精神力をより強固なものとして身につける。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (加藤万也/2回) 保育に関する専門知識の獲得 (集団討議) (黒谷万美子/2回) 保育に関する専門知識の獲得 (食関連) (平宮正志/2回) 保育に関する専門知識の獲得 (心理) (加藤彰浩/3回) 保育に関する専門知識の獲得 (運動) (加藤みゆき/3回) 保育に関する専門知識の獲得 (法規) (白鳥清子/3回) 保育に関する専門知識の獲得 (音楽実技)</p>	オムニバス方式
	開 拓 領 域	<p>これまでの教職保育特論1～7で学修したすべての内容を踏まえて、保育および教育職に就くための資質として必要な要素を全て習得することを目指す。特に「面接」と「論作文」、「模擬授業」、「集団討議」などにおいて、確実に自己の能力を引き出せるような研鑽を積み、学修の総仕上げの第2期と設定する。そうした学修によって、自身の持つ潜在能力を引き上げるとともに、無限の可能性に挑戦する精神力をより強固なものとして身につける。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (前田治/2回) 教育に関する専門知識の獲得 (小論文) (久保田英助/2回) 教育に関する専門知識の獲得 (教育原理) (山田禮子/2回) 教育に関する専門知識の獲得 (国語) (西川愛子/2回) 教育に関する専門知識の獲得 (面接マナー) (埴佐敏/3回) 教育に関する専門知識の獲得 (教育公務員の意識) (神谷裕子/2回) 教育に関する専門知識の獲得 (教育法規) (安江真由美/2回) 教育に関する専門知識の獲得 (器楽実技)</p>	オムニバス方式
	卒 業 研 究	卒 業 研 究	<p>大学生にとって、卒業論文作成は、大学での学びの集大成であるといえる。学生が、卒業論文で、問いを立てる力、その問いへの考察を持続する力と論理的に表現する文章表現力を養う。このことによって、卒業後自ら学び続け、自らの考えを論じていける力の涵養をめざす。それとともに、卒業研究の発表会にて研究概要をパワーポイントによって発表する。研究論文作成と研究発表の両方をもって一連の卒業研究として承認するものとする。</p>

## 学校法人安城学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
<b>愛知学泉大学</b>				<b>愛知学泉大学</b>					
<b>家政学部</b>				<b>家政学部</b>					
家政学科				<u>管理栄養学科</u>	80	-	320	学科設置(届出)	
<u>管理栄養士専攻</u>	80	-	320	<u>ライフスタイル学科</u>	40	-	160	"	
<u>家政学専攻</u>	40	-	160	<u>こどもの生活学科</u>	70	-	280	"	
<u>こどもの生活専攻</u>	70	-	280						
<b>現代マネジメント学部</b>				<b>現代マネジメント学部</b>					
現代マネジメント学科	0	-	0	現代マネジメント学科	0	-	0	平成31年4月学生募集停止	
計				計					
190				190				-	760
<b>愛知学泉短期大学</b>				<b>愛知学泉短期大学</b>					
食物栄養学科	70	-	140	食物栄養学科	70	-	140		
幼児教育学科	120	-	240	幼児教育学科	120	-	240		
生活デザイン総合学科	130	-	260	生活デザイン総合学科	130	-	260		
計				計					
320				320				-	640